

研究種目: 特定領域研究

研究期間: 2007~2012

課題番号: 19046005

研究課題名(和文) 社会行動の文化・制度的基盤

研究課題名(英文) Cultural and institutional foundations of the social behavior

研究代表者

山岸 俊男(YAMAGISHI TOSHIO)

北海道大学大学院文学研究科・教授

研究者番号: 80158089

研究分野: 社会心理学

科研費の分科・細目: 心理学・社会心理学

キーワード: 文化、制度、均衡、認知、信念、適応、進化、集団

1. 研究計画の概要

本研究は、人間の適応行動が自己維持的な信念体系であると同時に誘因構造でもある「制度」を形成するとする、制度アプローチを心の文化差の説明に適応することを通して、文化への制度アプローチの視点から、人間の心と社会の相互構築関係の解明をめざす。具体的には、(1) 認知・信念システムの文化差に関する研究、(2) 集団行動の適応的基盤に関する研究、(3) 社会行動の制度的基盤に関する研究、(4) 制度の形成と維持に関するコンピュータ・シミュレーション研究を実施する。

2. 研究の進捗状況

研究は計画通り進行している。これまで“文化”の違いとして理解されてきた認知・信念システムの集団差ないし社会差が、異なる“制度”(すなわち、自己維持的信念・誘因結合体)への適応行動としてより適切に理解できること、すなわち、人間の本質的社会性が、異なる制度(人々の適応行動により形成・維持される誘因構造)への適応を促進するための「文化・心理的道具」として働いていることを明らかにすることを中心に、以下の研究成果が得られている。(1) 一般的信頼が社会的知性と関連していることを、実験ゲームでの行動を実験参加者のビデオ画像から判断する実験により明らかにした。(2) 免責ゲームにおける不公平提案拒否行動が、これまでの最後通告ゲーム研究で考えられていたような不公正回避嗜好によってではなく、感情を通したコミットメント戦略として理解できることを、一連の行動実験及び脳活動撮像実験により明らかにした。(3) 協力行動の背後に人々の表情がシグナルとして働いていることを、実験参加者の表情の詳細な分析により明らかにした。(4) 社会的公正を

維持するための行動に心の理論が必要であることを、幼児の経済行動実験を通して明らかにした。(5) これまで選好の文化差として理解されていた行動を、特定の制度へのデフォルト適応戦略として理解可能であることを、一連の実験研究により明らかにした。(6) 中国人と日本人の間の信頼の差を、信頼行動の持つシグナリングの意味の違いとして理解できる可能性を明らかにした。(紙数の制約により、これら以外の成果の紹介は控える。)これらの研究を含めたこれまでの実験研究の成果は、計 32 篇の研究論文、70 篇の学会発表論文として報告されている。また、一連のワークショップやシンポジウムを開催し、国内外の研究者との研究交流を進めると同時に、共同研究体制の確立を進めてきた。

3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

当初の計画に従い順調に研究成果を生み出している。また、当初の計画に加え、脳撮像研究、内分泌分析研究、顔面筋分析研究などを実施するための準備作業が進んでいる。海外における主要な研究誌に掲載された本研究の成果は、すでに大きな反響を生み出しつつある。

4. 今後の研究の推進方策

当初計画されていた実験ゲームに加え、脳撮像研究、内分泌分析研究、顔面筋分析研究などを実施する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 32 件)

1) J. Schug, D. Matsumoto, Y. Horita, T. Yamagishi & K. Bonnet [2010] Emotional

expressivity as a signal of cooperation. *Evolution and Human Behavior*, 31, 87-94 査読有.

- 2) H. Takagishi, S. Kameshima, J. Schug, M. Koizumi & T. Yamagishi [2010] Theory of mind enhances preference for fairness. *Journal of Experimental Child Psychology*, 105, 130-137 査読有.
- 3) T. Yamagishi 他 2 名 [2008] Preference vs. strategies as explanations for culture-specific behavior. *Psychological Science*, 19(6), 579-584 査読有.
- 4) C. Takahashi, T. Yamagishi 他 4 名 [2008] The intercultural trust paradigm. *International Journal of Intercultural Relations*, 32, 215-228 査読有.
- 5) T. Yamagishi & Karen S. Cook [2008] A defense of deception on scientific ground. *Social Psychology Quarterly*, 71(3), 215-221 査読有.

[学会発表] (計 70 件)

- 6) T. Yamagishi [2009; State of the Art Lecture] Micro-macro dynamics of the cultural construction of reality. The 8th Biennial Conference of the Asian Association for Social Psychology. India Habitat Centre, New Delhi, India, December 14.
- 7) M. Shinada & T. Yamagishi [2009] Trust and detection of trustworthiness. Paper presented at the 21st Annual Meeting of the Human Behavior and Evolution Society, California State University, Fullerton, California, May 29.
- 8) Y. Horita & T. Yamagishi [2009] Reputational advantages and disadvantages of punishment toward norm-violators. Paper presented at the 13th International Conference on Social Dilemmas, Kyoto Miyako Hotel, Kyoto, Aug 22.
- 9) T. Yamagishi [2008; Invited Address] An institutional approach to culture. XXIX ICP, ICC Berlin, Germany, July 21.
- 10) T. Yamagishi [2008] Are Humans Predisposed to Inter-group Aggression? Workshop on Theoretical Frontiers in Modeling Identity and Conflict, Hilton Hawaiian Village, Honolulu, USA, Nov. 8-9.

他 65 件

[図書] (計 2 件)

- 1) 山岸俊男 [2008] 『日本の「安心」はなぜ消えたのか: 社会心理学から見た現代日本の問題点』集英社インターナショナル、総ページ数

261.

- 2) 山岸俊男・吉開憲章 [2009] 『ネット評判社会』NTT出版、総ページ数 215.